

●加治川堤の桜について

Q.

突然ですが、加治川の桜は昔、加治川の鉄橋より外国人も花見に来たものです。今何本の桜の木があるのか？世界一と思われる。是非とも宣伝してもらいたい。

(令和7年1月受付)

A.

加治川堤桜は、かつては東洋一の桜並木と謳われるほどの美しいものであり、本市出身の大実業家 大倉喜八郎も大倉製紙工場の従業員を引き連れて花見に訪れた 場所でもあるなど、本市を代表する桜の名所であります。

大正4年に大正天皇即位を記念して植栽された加治川の長堤十里の桜並木は、昭和41年、42年の水害と河川改修により一度失われてしまいましたが、復元が進み、現在では約二千本の桜を観ることができます。

桜の開花時期に合わせて加治川治水記念公園や新発田城址公園では「新発田の春まつり」を開催しているほか、加治川堤防をコースにした「春RUN漫しばたジョギング大会」なども行われており、この時期には、市内をはじめ市外からも多くの個人旅行客や団体旅行客が鑑賞に訪れており、今年の春には堤桜を鑑賞するため、タイからの団体ツアーが予定されています。

また、今年は加治川桜堤植樹100周年という節目の年でもあり、様々な催しも企画されていることから、本市としても、さらに多くの方にお越しいただけるよう、SNSなどを通じて、加治川堤桜の圧倒的なスケール感を国内外にも広く発信し、世界中から多くのファンを募っていきたいと考えております。

このたび加治川堤桜に関するお手紙を頂戴し、その魅力を再認識したところであり、この場所は本市の重要な観光資源としてだけでなく、市民の宝として大切に保存していかなければならないと改めて感じたところであります。

この機会をいただいた〇〇様には感謝を申し上げますとともに、加治川堤桜については、新たな100年に向けてしっかりと守ってまいります。

(令和7年1月28日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。